

環境経営レポート

令和6年8月1日から令和7年7月31日

有限会社メイホウ

代表取締役 寺野峰雄

令和8年2月24日発行

令和8年3月23日改訂

1. 目次

1. 目次	1
2. 組織の概要	2
3. 処理工程図	5
4. 取組の対象範囲（認証・登録範囲）	3
5. 環境経営実施体制図	7
6. 環境方針	8
7. 環境経営目標	9
8. 環境取組結果とその評価、次年度の取組内容	9
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	13
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	13

2. 組織の概要

事業者名及び代表者氏名

有限会社メイホウ 代表取締役 寺野峰雄

所在地

本社

〒454-0934 名古屋市中川区西中島2丁目9-2-1番地

TEL 052 (381) 3221

環境管理責任者

代表取締役 寺野峰雄

創立

昭和46年11月4日

会社履歴

昭和46年11月	有限会社名豊産業を設立し、金属くず再生業を開始
平成2年5月	商号を有限会社メイホウに改称
平成19年3月	愛知県で産業廃棄物収集運搬業の許可を取得
令和3年8月	飛島工場新設 〒490-1444 愛知県海部郡飛島村木場2丁目5-4番地

事業規模（エラー! 参照元が見つかりません。）

売上高	992百万円
資本金	3,000,000円
総従業員数	15名（役員4名、正社員6名、特定技能外国人4名、事務員1名）
敷地面積	本社工場 1075 m ² 、飛島工場 1800 m ²

事業活動の概要

金属くず回収、再生加工、販売

環境への負荷の推移（全社合計）		単位	R6年度	R5年度	R4年度
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	238745.31	241639.21	250275.42
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量	t	0.75	0.75	1.21
	一般廃棄物排出量	t	2.3	2.3	
水使用量	上水	m ³	290	331	613

可鍛出荷量	t	エラー! 参照元が見つかりません。	12118	15783
-------	---	-------------------	-------	-------

所有設備

本社工場

金属切断機 3 台 (出力 30kW/37kW 1 台、45kW/3.7kW/ 2 台)
クレーン (出力 75kW) 2 台
ランナーブレーカー (破砕量 15 t/h)

飛島工場

金属切断機 5 台
(出力 45kW/3.7kW/1.5kW 1 台、
45kW/3.7kW/ 1 台、18.5kW 2 台、
15kW 1 台)
クレーン (出力 75kW 2 台、出力 2 台)
モーターコア銅線切断装置 1 台 (処理能力
1 個当たり約 80 秒)



輸送部門

トラック 8 台

トレーラー	最大積載量:	21700kg
(トラクタ	第5輪荷重:	11500kg
ダンプ	最大積載量:	8900kg
ダンプ	最大積載量:	9600kg
ダンプ	最大積載量:	9100kg
ダンプ	最大積載量:	9000kg
キャブオーバ	最大積載量:	13600kg
キャブオーバ	最大積載量:	3900kg

3. 取組の対象範囲 (認証・登録範囲)

対象範囲

本社・工場、飛島工場、全活動 (金属くず回収、再生加工、販売)

レポートの活動期間

令和6年8月1日から令和7年7月31日

次年度の活動期間

令和7年8月1日から令和8年7月31日
レポート発行は令和8年10月の予定です。

産業廃棄物収集運搬業に関する項目

許可内容

愛知県知事許可第02300232484号（保管積み替えを除く）

許可を受けた廃棄物の種類

廃プラスチック類（自動車破砕物および石綿含有産業廃棄物を除く）
金属くず（自動車破砕物を除く）

許可年月日

令和5年1月24日

有効年月日

令和10年1月23日

施設の状況

トラック8台（うち1台はトラクタ。金属くず再生業と兼用）

処理実績

750Kg（自社搬入のみ。受託物はすべて再生利用）

廃棄物再生事業に関する項目

登録内容

愛知県廃棄物再生事業者 第2393019号

登録品目

金属くず

処理施設の種類

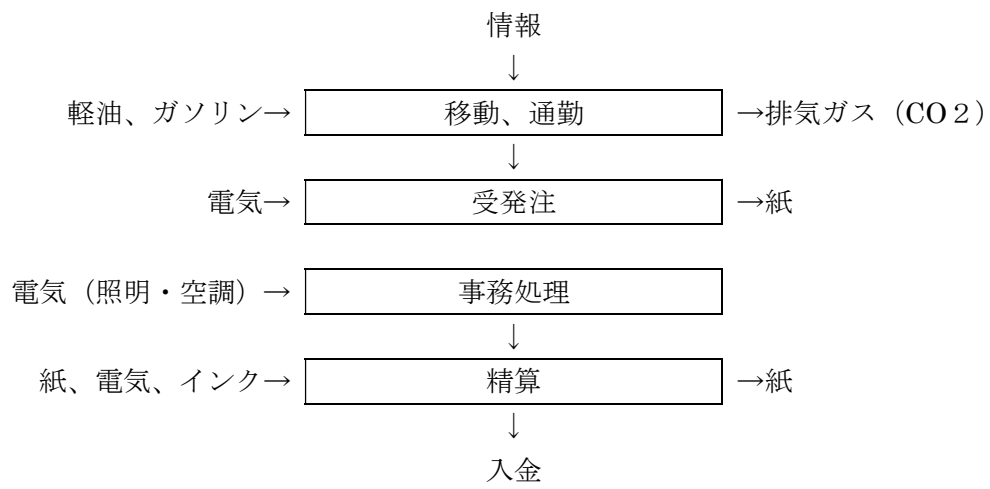
中間処理

処理方法

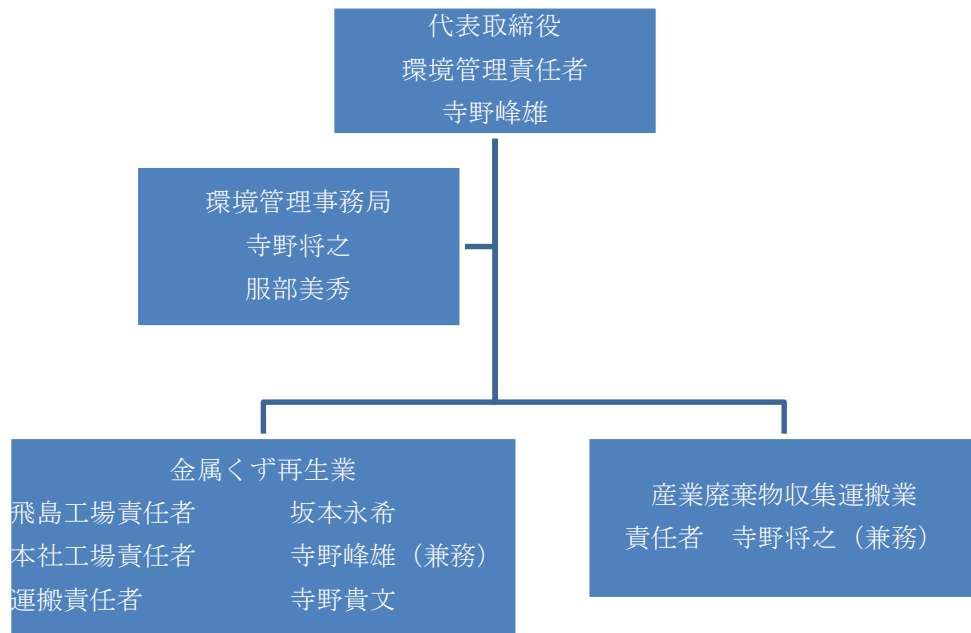
選別・加工

処理実績

事務、営業



5. 環境経営実施体制図



代表者

- 環境方針の作成
- 環境活動計画の承認、レビュー

環境管理責任者

- 環境関連法規等の取りまとめ
- 社外からの環境に関する苦情、要望の受付、対応
- 環境関連文書、記録類の保管
- 環境教育、訓練の実施
- 環境活動の取組状況の確認および問題の是正
- 緊急事態発生時における情報の窓口

工場責任者

- 液体酸素、プロパン、上水の漏れをチェックする。
- 機械の運転ルールが守られているかチェックする。
- 切断方法の選別、機械切りへの移行

金属くず再生業 運搬責任者

- 運転記録の作成。

産業廃棄物収集運搬業責任者

- 産業廃棄物収集運搬契約の締結。

運転手

- エコドライブの実践。
- 車両の日常点検

工場作業員

- 機械の日常点検、節電ルールの順守

6. 環境方針

有限会社メイホウは事業活動を通じて、持続可能な資源循環型社会構築の一翼を担い、資源の有効活用および産業廃棄物の適正処理に寄与し、環境への負荷の削減と環境への取り組みの推進をはかり、もって地球環境の改善に貢献します。

1. リサイクル事業を通じて受け入れた受託物のすべてを再び資源として流通させることで資源の有効活用を推進します。
2. 以下の活動を継続的に行うことを通じて、事業活動による地球温暖化防止に努めます。
 - (1) 動力原単位を低減します。
 - (2) 酸素使用効率を上げ、二酸化炭素の発生を低減します。
 - (3) 運搬車両の燃費を向上させることで、大気汚染を防止します。
3. 分別管理を徹底することで廃棄物の発生量を減量し、最終処分施設の延命に寄与します。
4. 定期的に漏水をチェックし、水資源をムダにしないように努めます。
5. 環境に関する法規制を遵守し、環境保全に努めます。

この環境方針は当社で働くすべての従業員に周知し、一般に公開します。

平成19年8月1日制定

平成22年3月1日改訂

平成26年2月1日改訂

令和3年7月31日改訂

有限会社メイホウ

代表取締役 寺野峰雄

7. 環境経営目標

環境目標	単位	中期目標 R8年度	次期目標 R7年度	当期目標 R6年度	基準年度 及び基準値
回収物の再資源化	—	全量販売	全量販売	全量	H25より
二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO2/t	13.0	13.5	14.0	15.1 (H27実績)
運搬車両燃費効率向上	km/L	2.8	2.6	2.6	2.87 (H29実績)
電力原単位削減 (本社) (飛島)	kWh/t	15.0	15.5	16.0	14.8 (R5実績)
酸素使用効率の向上 (本社) (飛島)	t/本	60	57.5	55	58.9 (R4実績)
プロパン使用効率の向上	kg/t	0.300	0.315	0.333	0.376 (H27実績)
一般廃棄物排出量の削減	L (kg)	5000 (1750)	5000 (1750)	5000 (1750)	45L×96袋 (R3見込み)
グリーン購入の推進	—	優先購入品 点数の増進	優先購入品 点数の増進	優先購入品 点数の増進	H26より
水使用量の適正管理	m ³	適正管理	適正管理	適正管理	H26より
金属くずの回収箱設置	—	設置回収 の継続	設置回収 の継続	設置回収 の継続	H26より

※酸素ボンベ1本は132L、一般廃棄物は1L0.35kg

※二酸化炭素排出、電力、プロパン、酸素の原単位は可鍛出荷量

8. 環境取組結果とその評価、次年度の取組内容

1) 令和6年度の環境経営計画

上記環境目標を達成するために、下記の活動計画を策定し実施した。

環境目標	活動計画
回収物の再資源化	回収物の全量販売
二酸化炭素総排出量の削減	【運搬車両燃費効率向上】 ・エコドライブの実施
	【電力原単位削減】 ・省電力設備・製品の選定。 ・省電力行動の推進。
	【プロパン及び酸素使用効率の向上】 ・技能の習得・教育 ・バーナー、火口、ホースのメンテナンス
一般廃棄物排出量の削減	廃棄物になりにくい品目の選定 リサイクル・分別の推進
産業廃棄物の適正処理	発生時は法に基づき処理
グリーン購入の推進	エコマーク品・環境配慮用品の優先購入利用。 消耗品の削減
水使用量の適正管理	使用量の把握・節水の啓蒙 漏水事故のチェック
金属くずの回収箱設置	本社正面に回収箱設置の継続

2) 令和6年度の環境経営目標・実績および評価

環境目標	単位	目標	実績 令和6年度	評価	基準年度 及び基準値
回収物の再資源化	—	全量	全量達成	○	H25 より
二酸化炭素総排出量の削減	kg-CO2/t	14.0	15.4 (238745.31kg-CO2/エラー! 参照元が見つかりません。t)	×	15.1 (H27 実績)
運搬車両燃費効率向上	km/L	2.60	3.43 (158353km/46097L)	○	2.87 (H29 実績)
電力原単位の削減	kWh/t	16.00	本 社 18.7 (68662kWh/3669.97t)	×	14.8 (R5 全社実績)
			飛 島 14.2 (171186kWh/12077.69t)	○	
			全 社 15.9 (239848kWh/エラー! 参照元が見つかりません。t)	○	
プロパン使用効率の向上	Kg/t	0.333	0.284 (4266kg/エラー! 参照元が見つかりません。t)	○	0.376 (H27 実績)
酸素使用効率の向上	t/本	55.0	本 社 81.6 (2939t/36本)	○	58.9 (R4 実績)
			飛 島 56.2 (12077t/215本)	○	
			全 社 59.9 (エラー! 参照元が見つかりません。t/251本)	○	
廃棄物排出量の削減 (一般廃棄物)	L (kg)	5000 (1750)	7515 (2630)	×	4320(96袋) (R3 見込み)
グリーン購入の推進 (購入リストへの登録)	—	1点	請求書の電子化推進	○	H26 より
水使用量の適正管理	—	適正管理	適正管理	○	H26 より
金属くずの回収箱設置 (地域協力)	—	設置回収 継続	設置回収 実施	○	H26 より

評価基準 ○: 目標達成 △: 目標90%以上 ×: 目標90%未満

※計算式=実績/目標(削減目標は逆数)

※二酸化炭素排出量、電力、プロパン、酸素の原単位は令和6年度可鍛出荷量(エラー! 参照元が見つかりません。t)

		令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	238745.31	241639.21	250275.43	226124.04
可鍛出荷量	t	エラー! 参照元が見つかりません。	12118	15783	14650

- ※P R T R法対象物質である化学物質の使用はありません。
- ※事業年度は8月1日より翌年7月31日まで。
- ※二酸化炭素排出量把握に用いた購入電力にかかる排出係数（(株)サイサン 0.410kg-CO₂、日本テクノ (株) 0.446kg-CO₂ 令和4年実績、調整後係数) で計算してあります。

評価に関するコメント

総括

前年度の取引先の影響による出荷停止が正常化したため、環境経営の面においても前年年度並みの結果となった。飛島工場の活動も軌道に乗り、次年度から結果が表れてくると思われる。

回収物の再資源化（受託物の販売）

今年度も入荷のほぼすべてを出荷することができた。鉄リサイクルはすでに確立されているが、引き続きすべての受け入れ品のリサイクルを目指す。

二酸化炭素総排出量の削減

総排出量は前年度と比べて微増したものの、原単位の基となる可鍛出荷量が回復したため令和3年度並みの結果となった。

運搬車両燃費効率向上

運搬車両の燃料は当社で排出する二酸化炭素のうちの5割を占めるものであり、環境負荷も高いことから引き続き重点を置いて監視していく。運搬車両を休憩所として使う例が散見される。

電力原単位低減

飛島工場は月によってばらつきはあるものの年間を通じるとおおむね予測通りの原単位に落ち着いた。一方の本社は出荷量と比べて電力消費量が多く、原因を探らなければならない。

プロパン及び酸素使用効率の向上

機械切りの割合が大きくなり、全社ではようやく想定通りの結果となった。出荷量の少ない本社部門は、月次はもちろん年を通じてもブレが大きく、今後注視していきたい。

廃棄物の発生量抑制

今年度は大きな排出はなかった。飛島工場からは思っていたよりも多くの一般廃棄物が発生していることがわかった。次年度以降も注視していく。

グリーン購入の推進

請求書の発行の多くを電子化したため、紙の使用量を大きく減らすことができた。郵送にかかるコストや運送時の二酸化炭素の排出も抑えられると見込まれる。

水使用量の適正管理

当社では生産活動そのものでは水資源の投入はない。引き続き適正管理に努める。

金属くずの回収箱設置

家電やパソコンなどリサイクル法にかかるものは受け入れ出来ない旨を看板で掲示しており、不法投棄は発生していない。

3) 令和7年度環境経営計画

環境目標	活動内容	頻度	
回収物の全量再資源化	回収品の全量販売	常時	
二酸化炭素総排出量の削減		—	
活動目標	【運搬車両燃費効率向上】 ・エコドライブの実施 ・運搬経路、時刻の最適化	常時	
	【電力原単位削減】 ・省電力行動の推進。 ・省電力設備・製品の選定。	随時	
	【プロパン及び酸素使用効率の向上】 ・切断方法の選別（機械切りへの移行） ・待機時間の縮小または待機中のバーナーオフ ・バーナー、火口、ホースのメンテナンス	随時 作業前	
廃棄物排出量の削減	廃棄物になりにくい品目の選定 リサイクル・分別の推進	都度	
グリーン購入の推進	エコマーク品・環境配慮用品の優先購入利用。	随時	
水使用量の適正管理	使用量の把握・節水の啓蒙 漏水事故のチェック	都度	
金属くずの回収箱設置	本社正面に回収箱設置の継続	常設	

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

下記の環境法規制の遵守をチェックした結果、違反はなく、また訴訟・関係行政からの違反等の指摘、社外からの苦情も過去3年間ありませんでした。

当社において適用される環境法規制

廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物等の適正な処理及び資源化の促進に関する条例
家電リサイクル法	名古屋市火災予防条例
小型家電リサイクル法	海部南部消防組合火災予防条例
自動車リサイクル法	名古屋市環境基本条例
消防法	県民の生活環境の保全等に関する条例
騒音規制法	
振動規制法	
高圧ガス保安法	
浄化槽法	
フロン排出抑制法	

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

・実施日 令和7年7月31日 実施者 寺野峰雄

飛島工場が審査対象となることに伴い、電力原単位、酸素使用原単位を把握するようになったが、本社工場と飛島工場で大きな差が出ることが分かった。本社工場はとくに事前の予測と外れる幅が大きい。原因と探り、対策していかなければならない。

まだ従業員が他人事と思っているところが散見されるため、粘り強く啓蒙していく

・環境経営方針、環境経営目標、計画及び実施体制は変更なし

<指示事項>

工場、事務所、運搬車両の整理整頓清掃（3S）を徹底すること

自社内で機械メンテナンスができるように、情報を共有、技能をあげること

機械などに過剰な負担をかけるような作業は慎むこと